

本の読み聞かせ(図書放送委員会より)



「読み聞かせ」は読解力を向上させるだけでなく、感情の表現や「共感力」の育成にも大きな効果があります。物語の登場人物の感情や行動を通じて、子どもは他人の感情や視点を理解することができます。これにより、他人との関わり方や、共感力やコミュニケーション能力が向上します。また、想像力や集中力もアップすると言われています。

志方東小学校では、1学期は、教職員の読み聞かせ、七夕集会で図書放送

委員会の読み聞かせ、2学期は国語の学習から4年生が1～3年生へ新美南吉「ごんぎつね」や「てぶくろを買いに」の読み聞かせ、2年生が「みきのたからもの」を1・3・4年生へ紹介しました。また、図書放送委員会が、1～3年の各教室へ行って、読み聞かせを行っています。1年間を通して、図書ボランティアの方の読み聞かせもあり、子どもたちは楽しみにしています。学校でも5分～10分間など隙間時間を活用して行っています。ご家庭でももし5分～10分ほど、興味のある本に触れ合う時間があれば、ぜひ話題にさせていただけると幸いです。



次回、2月18日(水)の昼休みに図書ボランティアの方の読み聞かせがあります。

前回から引き続き、6年生がひがしっ子の「ブック・ウーマン」になって、本の価値について考えたことを紹介します。

読書の素晴らしいところ

「ぼくのブック・ウーマン」の学習を通して、読書への「価値」や「見方」が変わったと思います。低学年の時、好きな絵本や内容が簡単な本を読んだりしていました。けれども、高学年になるにつれ、本への関心が徐々に薄れてくると同時に、やるべきことがたくさんあり、本を読む時間が少なくなりました。

けれども、「ぼくのブック・ウーマン」の学習を通して、本は知識だけ身につくのではない、想像力や集中力も鍛えられるということを知り、さらに、本を読むだけで、人生が変わるかもしれないということも知り、本への関心が増してきました。最近は本に興味を持ち始め、「外遊びも大切。けれども、本を読むことも大切だ。」と思うようになりました。

僕は、放課後も、外で遊んだり、本ではなく漫画を読んだりして、本ではなく別のものを重要視してしまいます。だから退屈なときに何もしないではなく、様々な能力が身につく本を読む。本がなければ電子辞書で読むなどして、退屈な時間を読むだけの勉強を試みたいと思います。

このように、本には素晴らしい効果があります。本を読むことで、知識はもちろん、集中力や想像力などの能力が鍛えられ、人生が変わるかもしれません。そんな本を忙しくてもなんとか工夫してこの素晴らしい能力を身につける本を僕は改めて読んでいきたいなと思います。

次回も、続きを紹介します。楽しみに！